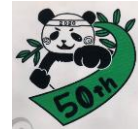




～祝 50周年～

笹小だより No. 11



令和4年2月28日
横浜市立笹野台小学校

「次なるステージへ」

校長 飯田 雅人

春の息吹が感じられる頃になりました。1月の下旬には、早くも校庭の梅の花がちらほらと咲き始めていました。立春の頃には1年生が生活科で大事に育てている植木鉢の球根からずいぶんと芽が伸びてきて、それを見つけた子どもたちが嬉しそうに観察している姿を微笑ましく見守っていました。そして今、正門の横にある桜の木に目を移すと、まだ小さくて硬いのですが、花のつぼみがしっかりと付いていることに気が付きます。季節は着実に進んでいます。

今年度も昨年度に引き続き、コロナ禍の中の1年でした。子どもたちはこの1年、新しい生活様式の中で、自分の健康を自分で守ること、プラス思考でできることを考えること、友達と学び合い、協働して問題を解決していく経験を積み重ねてきました。これまでの「当たり前」を問い直すとともに、「笹野台小学校の創立50周年を祝う特別な年」としても、その時々での最適な方法を模索しながら教育活動を進めてまいりました。子どもの成長を支えるにあたって、学校・家庭・地域等の連携の大切さをこれまで以上に実感した1年であったことは言うまでもありません。

2月の上旬に6年生が「巣立ちの会」に向けての取組を始めた時には、私は6年生全体にこんな話をしました。「6年前の小学校入学式から、卒業式までの授業日数は、およそ1200日です。みなさんはそのうちのすでに1170日ほどを過ごしてきました。残りあと30日余りのみです。マラソンにたとえるならば、42.195キロのうちのちょうど40キロのチェックポイントを過ぎたあたりでしょうか？ずいぶんと疲れがたまって、もしかしたらペースが落ちてきている人もいるかもしれませんね。でもここでこのままずるずるとペースを落としてしまったら、今までの頑張りがすべて台無しになってしまうこともあります。ゴールはもう見えてきています。今までの練習の成果を発揮し、ここでもう一回ギアチェンジをして、ペースを上げられるかどうかで優勝が決まるのかもしれない、そんな大切な時期です・・・。」

時は過ぎ、明日からはよいよ3月。小学校6年間をマラソンにたとえるならば、今、6年生にとっては、いよいよマラソンゲートをくぐり、最後のトラック1周にさしかかったところでしょうか？ゴールを目指して最後の走りに期待したいところです。

温かい気持ちで卒業生を送る3月。残りの授業日数は、6年生が14日、1～5年生は18日となりました。それぞれが次なるステージへの助走路に入っています。

さて、花は急にきれいな花を咲かせることができるわけではありません。つぼみの頃から、様々な準備をしてこそきれいな花を咲かせることができます。子どもたちがきれいな花を咲かせることができるようにするためにも、自己の振り返りとこれからの期待を確認しつつ、大切なまとめの月にしたいと思います。子どもたちを長い目で見守りながら、変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。